



エピソード

園庭でカラスノエンドウを見つけた子ども達。「皮の中に豆が入っていたよ」「使ってみたい」と、興味をもちました。A児「すり潰すと色が出るかな」と、カラスノエンドウをすり鉢とすりこ木で潰してみることにしました。力を入れてすり潰したり、トントンと叩いたりして水と混ぜると、A児「緑色の色水ができた。お茶みたい」と、近くにいた友達や保育者に見せました。B児「お料理できそうだね」、A児「ごちそういっぱいつくろう」と、隣で遊んでいた友達の様子にも関心を寄せながらつくる姿が見られるようになっていきました。今度は同じ遊びの場で友達が米ぬかを使って遊んでいる様子を見て、A児も米ぬかを使って遊びます。米ぬかと少量の水を混ぜ、机の上に広げてめん棒で伸ばし、型抜きをはめ込んで形をつくります。A児「クッキーできた」、B児「おいしそう」と、ごちそうづくりを楽しみます。さらに、A児はカラスノエンドウを皿にのせ、その上から米ぬかをサラサラとふりかけます。保育者が「おいしそうのごちそういっぱいだね」と声をかけると、A児「これは、カラスノエンドウのぬか潰けです」と、嬉しそうに見せました。

A児やB児、C児はつくったごちそうを机に並べ、保育者に「ここに座ってください。これは春のごちそうです。食べてください。2時間ごゆっくり」と声をかけると、店員になって遊ぶことを楽しんでいました。

保育者の思い

- ・園庭に実っていたカラスノエンドウを見つけて興味をもつ子どもの姿があったので、春の草花を使って遊べたらと考え、保育者も一緒に手に取ったり、遊びの場に置いたりしました。
- ・新たにイメージを広げながら遊んでほしいと思い、4歳児の時にも使ったことがある米ぬかを遊びの場に用意しておきました。
- ・カラスノエンドウや米ぬかを使ってイメージしながらごちそうづくりを楽しむ子ども達に声をかけたり、机に並べたごちそうを食べたりすることで、子ども達の思いを引き出したり、受け止めたりするようにしました。

子どもの育ちや学び

- ・園庭にあった春の草花や、今までに使ったことがある米ぬかを使って遊ぶ中で、つくりたいものをイメージしながら遊んでいます。
- ・用具を使ってすり潰したり、伸ばしたり、ふりかけたり、つくる方法を工夫しながらごちそうをつくっています。つくったものを友達や保育者に見せることで関わりが生まれ、自信につながっています。
- ・ごちそうを並べることでレストランに見立てたり、店員になったりして、友達や保育者との言葉のやりとりを楽しんでいます。

家庭だったら・・・

- ・子ども達と一緒に身近にある草花を見つけて、触れたりしてみてください。春の季節を感じられそうです。
- ・ご家庭でもどんなことをして楽しかったのか、驚いたのかなど、聞きながら会話を楽しんでください。お家の方と子ども達が一緒に関わり、会話を楽しむ時間になります。